

中長期の海洋環境変動を把握する調査研究

海洋環境の中長期的変化の把握に必要な30年間の水温・塩分の変化を本道周辺179定点で調査しました

背景

- ・水産資源の資源量や分布は海洋環境により大きく変化します。
- ・北海道周辺海域の海洋観測を1989年から2か月に1度の頻度で30年間継続してきました。



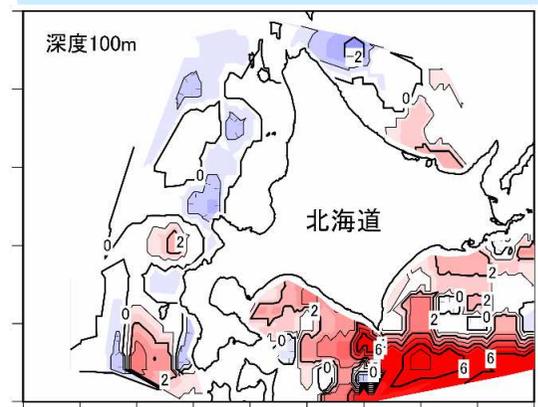
海洋観測作業

成果

1 水温速報をWEBで公開

- ・今後は年毎の特徴を30年平均値と比較
- ・サンマ、スルメイカなどの来遊予測に活用

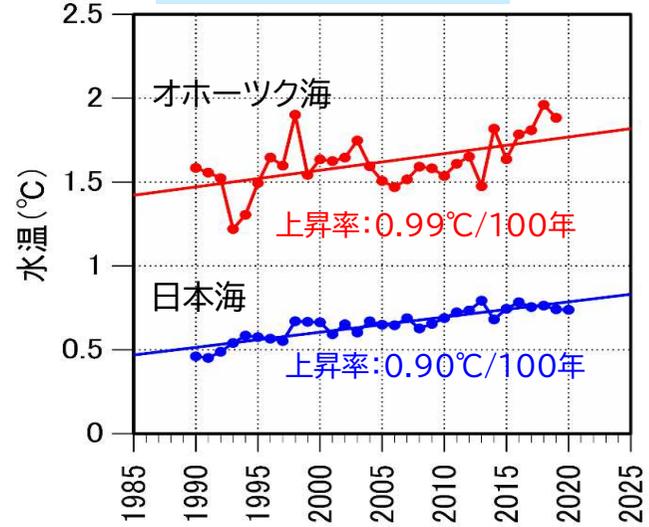
30年平均との比較(2020年4月)



2 海洋温暖化を把握

- ・海洋深層水の温暖化を把握
- ・スケトウダラなどの資源管理に活用

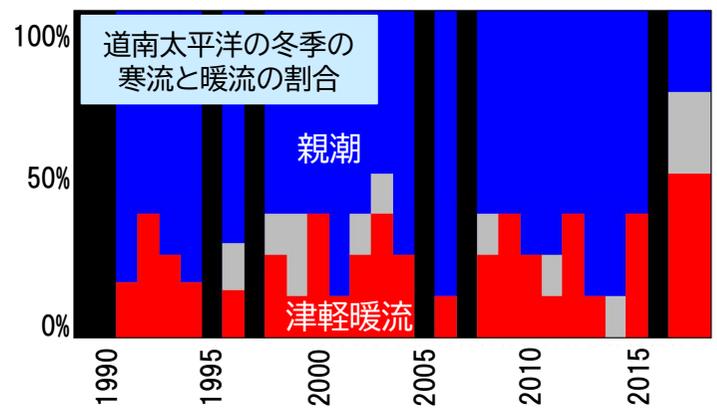
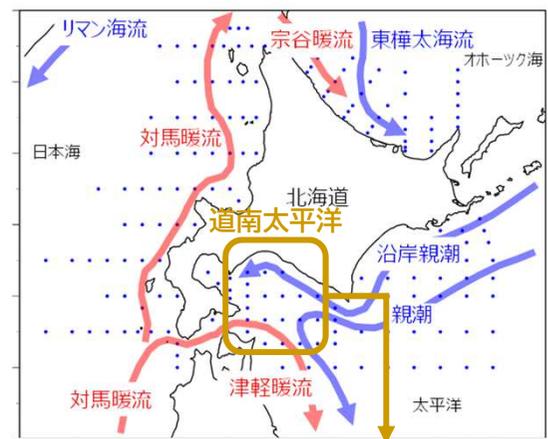
500m深水温の長期変化



3 海流の勢力を見える化

- ・最近年は親潮の道南太平洋への張り出しが弱い
- ・天然マコブ不作の要因と推定

北海道周辺海域の海流と定期観測定点



期待される効果

○環境変化を把握する研究成果は関係者に速報として提供し、回遊魚の来遊予測、資源管理および環境に応じた漁業の構築などに活用されます。